

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
実施報告書

報告日	平成31年1月7日
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校
PTA会長名	宮本昌尚

実施概要	実施活動名	講演「発達障がいを理解して」(PTA家庭教育学級)
	実施日時	平成30年10月11日(木)
	実施場所	香川大学教育学部附属坂出小学校体育館
	実施目的	発達障がいのある児童の特性と支援について理解を深めるため
	実施内容	専門家による講演会
	実施方法	講師を招き講演を聴く
	参加人数	小学校の保護者約200名,小学生1から6年全員415名,希望の幼稚園保護者若干,教員全員

報告事項	内容	<ul style="list-style-type: none">・香川大学教育学部特別支援コースの坂井聡先生より「困っている人がいたら助けよう」という演題で講演をいただいた。・前半は子供向けの講演内容で、親子で聞いた。後半は保護者だけで聞いた・人権の授業参観日の後に、PTA家庭教育学級として位置づけた・家庭に帰って、親子で授業や坂井先生の講演に内容について話し合うようにした。
	結果	<ul style="list-style-type: none">・たくさんの保護者に参加していただきよかったという感想を多くいただいた。・幼稚園の保護者も若干名参加していただけた。・子供と保護者と教員が同じ話を聞くことにより、障がいの理解について共有化できた。
	所感	<ul style="list-style-type: none">・学校の授業参観とPTA家庭教育学級をコラボさせること。子供向けの話を親子で聞くこと、保護者だけの話の場を設けること。家に帰って話題になるように計画することなど、新しい家庭教育学級のスタイルを試行できた。

添付書類

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
参加感想

提出日	平成31年1月7日
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校
学年	1～6年



【子供と保護者が一緒に聴く】

<子供の感想>

- 階段じゃなく、スロープになったらいいんだと思いました。困っている人がいたら助けてあげたいです。
- いろいろな障がいを持っている人に手をかしてあげて、自分は障害のある人の段差になっていないか振り返りたいです。
- 今までの障がいのイメージは物事に参加できないことだと思っていました。話を聴いて障がいは人では無く、それを妨げる階段のようなものだと思います。これからは、階段のような存在にならないように気をつけます。
- 今日聴いたことは難しいことだと思いました。なぜなら、やろうとしてもなかなか率先してできなかったり、しようしない人がいたりするからです。でも、僕は自分にできることは無いかを考え、自分にできることを積極的にしていきたいです。
- 障害のある人を差別せず、一緒にいろいろなことをすることと、一人一人の違いを認め、みんなで一緒に同じ景色を見るために自分には何ができるかを大切にしていきたいです。
- 東京パラリンピックで体が不自由でも今まで仲間と一緒に練習してきたからこそ、大きな結果を残せると思います。心に残ったのは一人が車いすだったら、みんなが車いすに乗ってプレーすればよいと言うことです。「みんなと一緒に活動できることが大切」だなあと、これからの生活に活かしたいと思いました。
- みんなが一緒にしたら障がいは無くなる。それは、世の中が階段ではなくスロープになること、わたしも困っている人がいたら知らない振りをしてその人の階段になるのではなく、受け入れてスロープになれるような人をめざしていきたいと思いました。困っている人の道を照らせるような世界になるようがんばりたいです。

カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

提出日	平成31年1月7日
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校



【子供と一緒に聴いた後、保護者だけが解説を聴く】

<保護者の感想>

- 「何が障がいなのか」体が不自由なことではなく、段差をつくっている周りの私たちが障がいであることにはっとしました。みんなが同じ景色を見れる様に大人である私たちが常日頃から心がけていきたいと思いました。「ADHD」や障がいのある子供たちだけでなく、すべての子供たちに大らかに接していきたいです。
- 気付かされる点がたくさんありました。普段何気なく思っていたこと、していた行動が障がいをつくっていたのかもと考えさせられました。子供と今日の話と一緒に考えていきたいです。
- 障がいの定義が変わっていることは普段の生活の中でずっと子供に言ってしまうことに気付かされました。子供のしたいことを大切にしながら子育てができるようになれば良いと思いました。
- 以前、障害のある人を見かけたときに子供に聞かれどのように伝えれば良いのか戸惑ってしまいました。大人でも声をかけるときに躊躇してしまいがちです。今日の講演を聴いて、再度子供と一緒に障がいについて見直す機会をいただきました。
- 頭の中では分かっている、障がいということを知っている部分もありました。その方の立場に立って考えることがどんなに大切であるかということが分かりました。
- 過程でこのようなことを話す機会が無かったので、良い機会になりました。子供ともう一度ゆっくり話してみようと思います。